

## 第15回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成30年8月30日(木) 午後7時00分～7時40分
- 【場 所】 武蔵野市役所 4階 412会議室
- 【出席委員】 阿部迪子 岡内歩美 荻野芳明 加藤慎次郎  
齋藤尚志 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登  
西上原節子 能勢方子 花俣延博 濱中洋子  
平岡直樹 茂木 勉 山本信之 (敬称略)
- 【事務局】 クリーンセンター所長、ごみ総合対策課減量企画係長 他
- 【欠 席】 今木仁恵 迫田洋平 前田美和子
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
- 資料1 パブリックコメントの意見要旨
- 資料2 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会最終報告書(案)
- 参考資料 クリーンセンターからの有害ごみの分別徹底のチラシ

### 1 開 会

### 2 議題

#### (1) パブリックコメントの意見要旨について

【事務局】 資料1について説明。

【委員長】 事務局の説明を受けて、ご意見等はあるか。

【委員】 内容については、文章表現などの一部修正すべきところが見受けられる。3ページ目の「その他のご要望」の回答の部分で、「取組を評価する制度を構築します」とあるが、委員会目線の書き方に修正をした方が良いと思われる。内容表現につきましては、委員長にお預かりをしていただき、より表現を磨いた方が良いと思われる。

#### (2) 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会最終報告書(案)について

【事務局】 資料2について説明。

【委員長】 事務局の説明を受けて、ご意見等はあるか。

【委員】 最終報告書となっているが、これまでは中間とりまとめという名称で説明をしてきていた。最終報告書というタイトルにすると全ての検討が終了してしまうのではないか。今回は総合的な対策の第一歩であり、今後の継続的な議論で対策を増やしていくような説明にしなければ、なぜこのような

話し合いをしてきたのかと心配になる。

**【事務局】** 今回の見直しは中長期的な構想の第一歩であり、今回の委員会をもって終了するわけではない。最終報告書と明記したのは、今回の委員による検討委員会での区切りとして、また平成29年3月に出した報告書の名称に変化をつけなければいけないためである。今回で改革が終了してしまうという危惧が多いようであるならば、タイトルの変更を検討する必要があると思う。

**【委員長】** どのようなタイトルであれば、ニュアンスが伝わるか。

**【委員】** 中間とりまとめとして話し合いをしてきたので、中間報告書でいいのではないか。

**【委員】** まだ検討の余地があるのであれば、報告書素案1、というように番号を付けてはどうか。後に報告書の資料が重なっていくのであれば番号を付けて、最終的に最終報告書とすればよいと思う。

**【事務局】** 平成29年3月に出されたものが「ごみ収集の在り方等検討委員会報告書」としているので、今回は「ごみ収集の在り方等検討委員会報告書2」とすることでよいか。

**【委員】** 分かればよいと思う。

**【委員】** 表題について、この委員会での検討は9月末でひと区切りとなるが、中長期的な課題を含んでいるため、ここで検討が終了するわけではないという趣旨が表現されるべきである。

**【事務局】** 在り方検討委員会の委員任期が、30年の9月末までとなっており、報告書としてまとめた形で区切りをつけている。報告書には番号やサブタイトルをつけるなどの方法もあると思う。具体的なタイトルについては事務局で検討をして、委員長に一任という形でまとめさせて頂きたい。

**【委員長】** その他にお気づきの点はあるか。

**【委員】** 将来についてどのように考えたらよいかという点でコメントをしたい。現在の資源物の分類が、びん・缶・有害ごみ・ペットボトル・その他プラスチック容器包装・古紙・古着となっているが、この先もこのままの分類でよいものか疑問である。リサイクルを中心に資源化や分別を促進していく考え方でこれまでやってきている。本当の資源とはなんなのか、資源に分類しているが邪魔になるものなどが混在していると思うので、ここで原点に戻って見直し、発想の転換が必要であると感じる。

びんは売れないと聞いているので資源にはならないと考える。その他のプラスチック容器包装は、瑞穂町の間処理施設でプレスをしたものを、君津市にある新日鐵住金でコークスの代替燃料として使われていると言われている。燃料になるのならば、新クリーンセンターで発電とした方が経済的ではないかと思う。リデュースの時代になっているので、びんは使用し

ないような行動をしたり、ペットボトルは、リサイクルの純度が下がらないようにラベル等を剥がすことをPRしていくなど、発想の転換の時期に来ているのではと感じている。

**【事務局】** 資源物の分類については、前の時代からのものになっている。その他プラスチック容器包装については、新クリーンセンターでは発電と熱利用が出来るコージェネレーションの設備を備えており、資源として収集することでどれだけ有効利用できているのか、何が環境負荷の低減になりコストの削減になるのかなどを研究していかなければいけない。ペットボトルは、きちんとリサイクルをすれば純度が高く、ラベル等を剥がしていくことは委員の言われるとおりである。価値観の転換を図る啓発はやって行かなければいけないと考える。紙類や金属類はいかに有効にリサイクルするかは今後も啓発を進めていく。

### (3) その他

**【事務局】** 報告書についてタイトルや今回の意見の修正を行い、委員長にご相談のうえ委員長一任という流れで進めてよろしいか。

**【委員】** 異議なし

**【事務局】** 9月上旬に委員長と副委員長が市長への答申を行い、市長が報告書を受け取った後、9月11日の厚生委員会に報告をする予定である。

最短で見直しをする場合、31年4月からということとなると思う。見直しを行う場合、市報やごみニュース、ケーブルテレビ、FMむさしの、説明会等での周知も考えている。また事業者との調整をした後に、ごみ収集の平準化と隔週化の開始となる。

クリーンセンターの発煙・発火に伴い、有害ごみの分別徹底のチラシは全戸配布用に作成した。10月からは市役所本庁舎・各市政センター・一部のコミセンの合計12箇所で、小型家電の拠点回収事業を本格化していくことになる。また宅配便回収についても市報10月1日号で掲載をしていく予定である。

**【委員長】** 事務局の説明にご意見等はあるか。

**【委員】** 事務方には委員会の方向性をスピード感をもって実現をして頂きたい。

## 3 閉 会

以上